

小児に対する手指欠損用筋電・ 能動義手の事業化検証

課題番号：STSC20017
研究代表者：国立成育医療研究センター
診療部長 高木岳彦

技術シーズ 多種多様な小児における上肢欠損に対応するため、AI搭載によりトレーニング期間の短縮が可能であり、小型化した筋電義手と、残存関節能を活用した能動義手の、2種類の義手を開発した。

顧客の課題

- 自分でモノをつかめるようになりたい。
- 体の大きさにあった筋電義手が欲しい。
- 成長に合わせて買い替える必要があるので、安いほうがよい。

提供する
プロダクトや
サービス

筋電義手

- 駆動部の小型化により子供サイズでもOK。
- AI搭載によりトレーニング期間を短縮。
- パーツをリユースすることにより低価格化。



能動義手

- 対応できる機能性義手がなかった欠損に対する新規の義手。
- 残存関節能を駆動力とするため構造が単純であり安価。

